

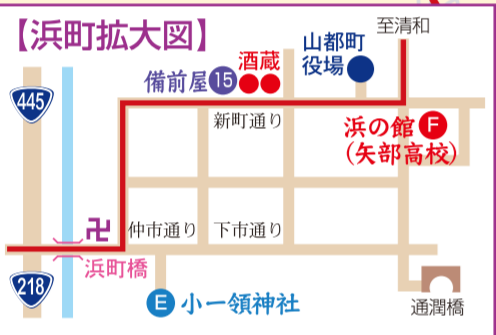
山都町(浜町)～馬見原



浜町は日向往還のなかで馬見原と並び主要都市。元禄時代には町が出来ていました。かつては町の中心に高札場(8枚)があり、今も古い商家が並んでいます。



15 備前屋 (現・通潤酒造の酒造場)
寛政三年(1791)、細川斉茲公が間谷山の狩りに来られた時本陣としたところで、御成りの間があります。また、西南戦争の際、西郷隆盛が日向往還を通り、備前屋で軍議を開きました。現在は、通潤酒造の酒造場となっています。



E 小一神社
阿蘇家の守護神宮が察されている、千年近い歴史のある神社です。創建は寛仁2年(1018)。戦勝を祈禱して小具足(鎧)一領寄進されたことが名前の由来です。神殿に複数あるハート型の彫刻より、最近では「恋一路」神社の愛称で縁縁祈願に来る方も多くいかに。

森林セラピー
森林には、人々の緊張、気分の落込み、疲労などを軽減させ、気分をリラックスさせる効果があることが科学的にも明らかにされつつあります。日向往還には、森林セラピーに最適なスポットが多数あり、健康促進のウォーキングにも最適です。

F 浜の館
承元元年(1207)、阿蘇大宮司惟次が南郷より矢部に移り、居館として設置した館です。天正13年(1585)まで歴代の大宮司は武將として活躍し、約400年間阿蘇氏の栄華の中心でした。館は現在の矢部高校の場所にあり、今は復元した礎石があります。かつては神殿を中心に数十棟の建物が並び、館の周囲は堀や土塁・水濠で取り囲まれ、伝統と格調を誇っていました。昭和48年10月から昭和49年3月にかけて発掘調査が行われ、黄金の延べ板や瑠璃杯、白磁玉取獅子形置物等21点の宝物(国指定有形文化財)など当時を物語る遺物が出土しました。

石橋群



● 門前川橋(御船町) ● 下鶴橋(御船町) ● 八勢目壺橋(御船町) ● 立野橋(山都町)
● 金内橋(山都町) ● 夕尺橋(山都町) ● 浜町橋(山都町) ● 聖橋(山都町)



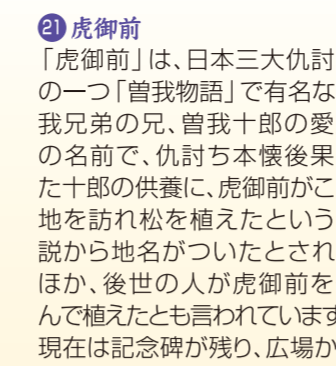
18 聖滝
中央部に突き出た岩が、滝に打たれて修業をしている僧に見えることから「聖滝」と名付けられたという言い伝えが残っています。国道218号沿いに展望所があり、そこから全景を眺めることができます。



18 竜の鼻の道標
元禄12年(1699)のもので県内最古。「右 まみ原をとおり日向へ 左 なんごう高森への道」と記されています。



19 山屋トンネル
凝灰岩を掘り抜いた素堀で、「日向往還の山屋トンネル」と言われています。長さ22m、高さ3.3m。開通は布田保之助の事跡に、嘉永3年(1850)往還異道とあります。



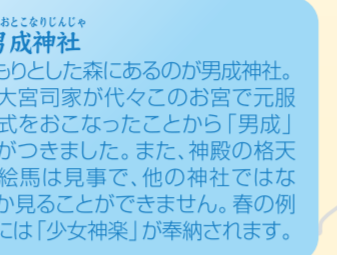
21 虎御前
「虎御前」は、日本三大仇討ちの一つ「曾我物語」で有名な曾我兄弟の兄、曾我十郎の愛人の名前で、仇討ち本懐後果てた十郎の供養に、虎御前がこの地を訪れ松を植えたという伝説から地名がついたとされるほか、後世の人が虎御前を偲んで植えたとも言われています。現在は記念碑が残り、広場からは九州脊梁山地の雄大な山々の連なりが一望できます。



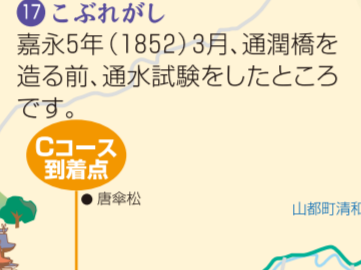
虎御前からの眺め



G 男成神社
こもりとした森にあるのが男成神社。阿蘇大宮司家が代々このお宮で元服の儀式をおこなったことから「男成」の名がつけました。また、神殿の格天井の絵馬は見事で、他の神社ではなかなか見ることができません。春の例大祭には「少女神楽」が奉納されます。



23 清和文楽
清和文楽は嘉永年間(19世紀中ごろ)、阿波・淡路系旅回り人形浄瑠璃一座から伝えられ、清和地区の郷土芸能として受け継がれています(県指定重要無形文化財)。清和文楽館では、毎月第2、第4日曜日に定期公演が行われており、公演がない日も文楽の世界が楽しめる展示棟や、物産品の購入、郷土料理が食べられる「清和物産館」も敷地内にあります。清和文楽館 TEL0967-82-3001 清和物産館 TEL0967-82-2727



17 こぶれがし
嘉永5年(1852)3月、通潤橋を造る前、通水試験をしたところです。



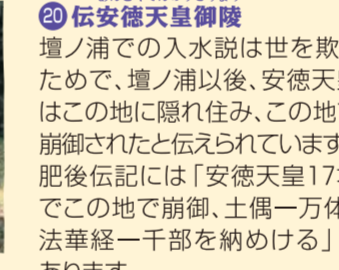
22 野村太夫の墓
野村太夫の墓



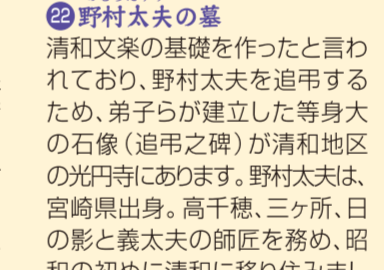
141 蘇陽エリア



20 伝安徳天皇御陵
壇ノ浦での入水説は世を欺くため、壇ノ浦以後、安徳天皇はこの地に隠れ住み、この地で崩御されたと伝えられています。肥後伝記には「安徳天皇17才でこの地で崩御、土偶一万体、法華経一千部を納めける」とあります。



22 野村太夫の墓
清和文楽の基礎を作ったと言われており、野村太夫を追悼するため、弟子らが建立した等身大の石像(追母之碑)が清和地区の光門寺にあります。野村太夫は、宮崎県出身。高千穂、三ヶ所、日の影と義太夫の師匠を務め、昭和の初めに清和に移り住みました。多くの弟子を育てあげ、芸道一筋に生きました。昭和32年没。



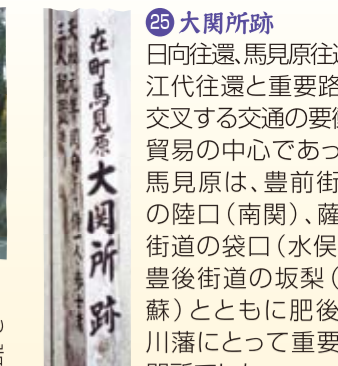
29 高千穂神社
古くは高千穂皇神社として続日本後紀に記されており、神社本殿と所蔵品の鉄削拍犬一対は国の重要文化財に指定されています。高千穂神社には源頼朝の代参・畠山重忠手植えの「秩父杉」や2本の杉の幹がくっついている「夫婦杉」などの巨木があり、この「夫婦杉」の周りを好きな人と手をつないで3回廻ると幸せになれると言われています。



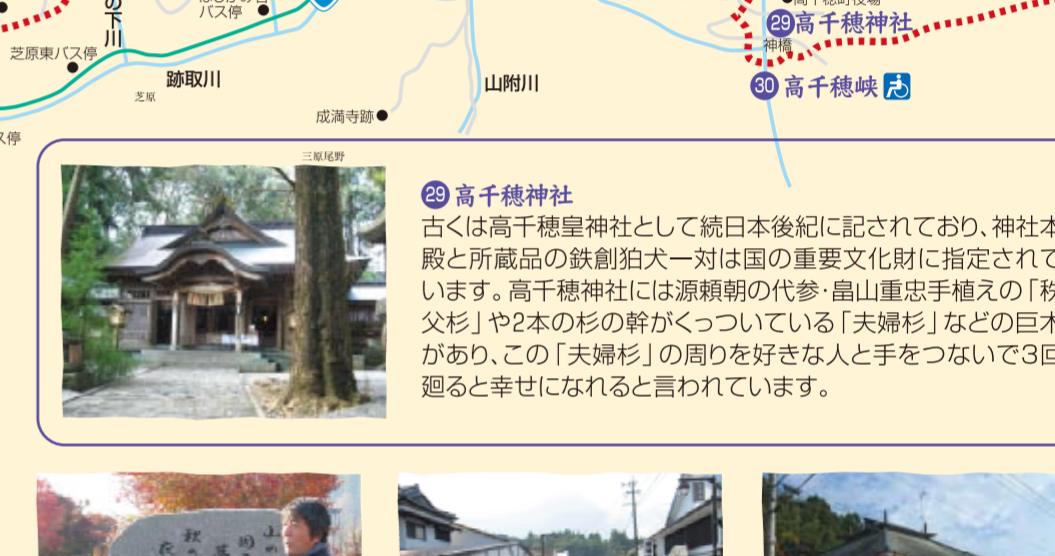
H 幣立神宮
高天原神話発祥の地とされる神宮。幣立の名は阿蘇の開拓祖、健甕龍命が高千穂から阿蘇へ向うとき、この地の景色に感嘆し、幣用(へい)はく。お戴いすときの祭典)を立て天神地蔵を祀ったとされることに由来しているようです。



24 夫婦岩
馬見原商店街の入口の馬見原橋のたもとにあります。向かい合う大小二つの岩に大しめ縄がかけられています。岩の姿を夫婦に見立たため、夫婦の縁がしかり結ばれているように見えます。



28 大関所跡
日向往還、馬見原往還、江代往還と重要路が交差する交通の要衝・貿易の中心であった馬見原は、豊前街道の陸口(南関)、薩摩街道の袋口(水俣)、豊後街道の坂梨(阿蘇)とともに肥後細川藩にとって重要な関所でした。



29 高千穂神社
古くは高千穂皇神社として続日本後紀に記されており、神社本殿と所蔵品の鉄削拍犬一対は国の重要文化財に指定されています。高千穂神社には源頼朝の代参・畠山重忠手植えの「秩父杉」や2本の杉の幹がくっついている「夫婦杉」などの巨木があり、この「夫婦杉」の周りを好きな人と手をつないで3回廻ると幸せになれると言われています。



27 火伏地蔵堂
火伏せとは火事を抑えることの意味。馬見原に火事が多かったことから永禄6年(1563)に地蔵堂が建立されました。馬見原火伏地蔵祭は、江戸時代、馬見原の無火災を願い祭られました。毎年8月下旬の週末、地蔵御輿を担ぎ、幾度となく五ヶ瀬川の水につける勇壮な「火伏地蔵祭」が行われます。



29 新八代屋跡
馬見原地区に残る、当時としては珍しい3階建ての木造建築物で、醤油造りに使われていました。現在では、活気ある馬見原商店街のシンボルになっています。

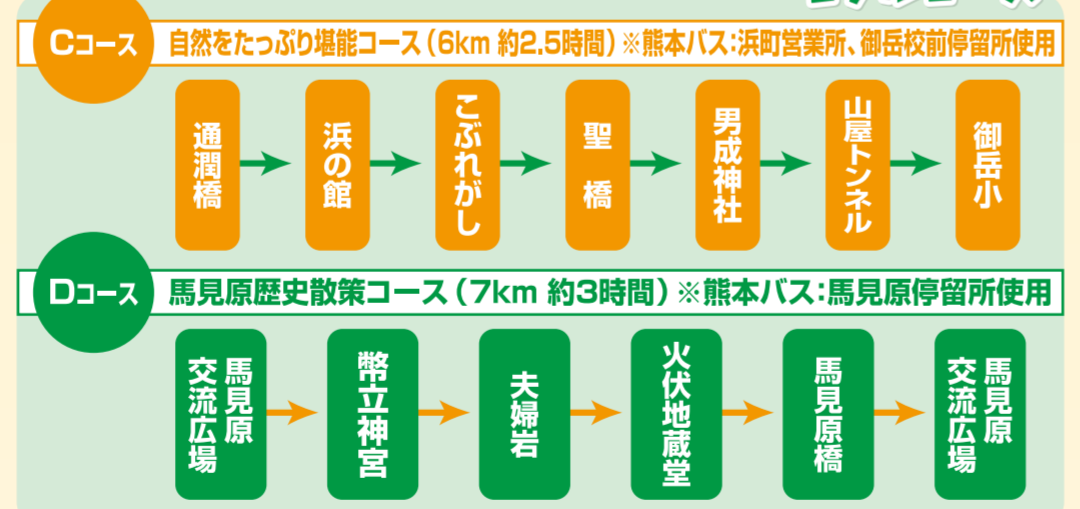
観光宿泊情報

名称	住所	料金(1泊2食)	TEL
旅館ことぶき	御船町1186-1	5,500円(税抜)	096-282-0224
国民宿舎通潤山荘	山都町長原192-1	9,500円~(1人利用は+1,000円)	0967-72-1161
川萬屋旅館	山都町浜町144	7,000円~	0967-72-0074
中萬屋旅館	山都町浜町155	7,000円~	0967-72-0037
藤木屋旅館	山都町浜町87	7,000円~	0967-72-0102
三好屋旅館	山都町浜町242	7,000円~	0967-72-0034
旅館山翠	山都町田吉539-1	8,400円~	0967-72-2525
平家の湯	山都町目丸3856	8,400円~	0967-72-0496
山荘わたなべ	山都町猿渡4423	5,500円~	0967-74-0013
清和高原の宿	山都町井無田1238-14	8,000円~	0967-82-3300
清流館	山都町鎌川11047	5,460円~	0967-82-3311
青葉の瀬(あおばんせ)	山都町鎌川13715-1	1棟4,200円~(定員6名)+別途1名につき1,050円 なお、ゴールデンウィーク、夏休み期間、土曜名日の朝日は料金がかかりますので、電話確認をお願いいたします。	0967-82-3511
そよ風パーク・ホテルウィンディ	山都町今297	9,450円~	0967-83-0880
熊乃屋旅館	山都町馬見原838	7,000円~	0967-83-0027
美顔屋旅館	山都町馬見原831-1	7,000円~	0967-83-1141
夢屋	山都町馬見原116-1	7,000円~	0967-83-1151

名称	住所	TEL	ホームページ
嘉島町 企画情報課	〒861-3192 嘉島町上島530	096-237-1111	http://www.town.kashima.kumamoto.jp
御船町 経済振興課	〒861-3296 御船町御船995-1	096-282-1607	http://portal.kumamoto-net.ne.jp/town_mifune/
山都町 商工観光課	〒861-3592 山都町浜町6	0967-72-1158	
山都町清和総合支所 産業振興課	〒861-3811 山都町大平385	0967-82-2111	http://www.town.yamatogun.kumamoto.jp
山都町蘇陽総合支所 産業振興課	〒861-3913 山都町今500	0967-83-1111	

名称	住所	TEL	名称	住所	TEL
御船町観光協会	〒861-3296 御船町御船995-1	096-282-1607	(財)清和文楽の里協会	〒861-3913 山都町大平152	0967-82-3001
山都町観光協会	〒861-3518 山都町浜町247-1	0967-72-3855			

モデルコース



熊本交通センター 浜町(約1時間25分)
熊本交通センター 馬見原(約2時間)
熊本交通センター 御船駅前(約1時間35分)
熊本バス熊本中央営業所 096-378-3447 熊本バス http://www.kuma-bus.co.jp/

滝



● 七滝(御船町) ● 五老ヶ滝(山都町) ● 鶴の子滝(山都町) ● 龍宮滝(山都町) ● 竿渡滝(山都町)

山都町(馬見原)



馬見原の町は日向延岡、高千穂、竹田、椎葉との交流の拠点で、日向往還の宿場町として栄えました。荷を運ぶ馬を多く見ることができることが地名の由来と言われています。今でも往時の名残を残す、雰囲気のある建物が多数残っています。